

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年9月11日(2014.9.11)

【公表番号】特表2013-533286(P2013-533286A)

【公表日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-045

【出願番号】特願2013-521879(P2013-521879)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 K 31/133 (2006.01)

A 6 1 K 31/426 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

C 0 7 K 16/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/04

A 6 1 K 31/133

A 6 1 K 31/426

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 29/00 1 0 1

C 0 7 K 16/44 Z N A

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月18日(2014.7.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

S1P受容体アゴニストおよびS1P受容体アンタゴニストより選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体における化学療法誘発性神経因性疼痛を治療する方法。

【請求項2】

前記化学療法が、タキサン、白金化合物、ビンカアルカロイド、プロテアソーム阻害剤、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の投与を含む、請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記化学療法が、パクリタキセル、オキサリプラチン、ボルテゾミブ、ビンクリスチン、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項3記載の方法。

【請求項4】

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ボネシモド、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、W146、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、請

求項1記載の方法。

【請求項5】

S1P受容体アゴニストおよびS1P受容体アンタゴニストより選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体におけるオピエート誘発性疼痛過敏症を治療する方法。

【請求項6】

前記オピエート誘発性疼痛過敏症がモルヒネによって誘発される、請求項5記載の方法。

【請求項7】

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ボネシモド、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、およびW146からなる群より選択される、請求項5記載の方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

製剤化送達、薬物動態、および乱用の可能性を改善するためのオピオイドアゴニストの改変に関しては進展したが、神経因性疼痛、炎症性疼痛、および痛覚過敏の発生の予防においてはほとんど進展が見られていない。よって、そのような状態を治療する新たな薬剤および方法の重大な必要性が存在する。

[本発明1001]

スフィンゴシンキナーゼアンタゴニスト、S1Pアンタゴニスト、S1P受容体アゴニスト、S1P受容体アンタゴニスト、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体における神経因性疼痛を治療する方法。

[本発明1002]

前記神経因性疼痛が化学療法誘発性である、本発明1001の方法。

[本発明1003]

前記化学療法が、タキサン、白金化合物、ビンカルカロイド、プロテアソーム阻害剤、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の投与を含む、本発明1002の方法。

[本発明1004]

前記薬物が、パクリタキセル、オキサリプラチン、ボルテゾミブ、ビンクリスチン、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、本発明1003の方法。

[本発明1005]

前記S1P受容体アゴニストがS1P1のアゴニストである、本発明1001の方法。

[本発明1006]

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ボネシモド、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、W146、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、本発明1001の方法。

[本発明1007]

前記スフィンゴシンキナーゼアンタゴニストが、メチルスフィンゴシン、N,N-ジメチルスフィンゴシン、トリメチルスフィンゴシン、D,L-スレオ-ジヒドロスフィンゴシン、およびHDLからなる群より選択される、本発明1001の方法。

[本発明1008]

前記S1Pアンタゴニストが抗S1P抗体である、本発明1001の方法。

[本発明1009]

前記抗体が、SEQ ID NO:1によって同定される配列を有する重鎖を含む、本発明1008の方法。

[本発明1010]

前記抗体が、SEQ ID NO:2によって同定される配列を有する軽鎖を含む、本発明1008の

方法。

[本発明1011]

スフィンゴシンキナーゼアンタゴニスト、S1Pアンタゴニスト、S1P受容体アゴニスト、S1P受容体アンタゴニスト、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体における疼痛過敏症を治療する方法。

[本発明1012]

前記疼痛過敏症がオピエート誘発性である、本発明1011の方法。

[本発明1013]

前記疼痛過敏症がモルヒネによって誘発される、本発明1012の方法。

[本発明1014]

前記S1P受容体アゴニストがS1P1のアゴニストである、本発明1011の方法。

[本発明1015]

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ボネシモド、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、およびW146からなる群より選択される、本発明1011の方法。

[本発明1016]

前記S1Pアンタゴニストが抗S1P抗体である、本発明1011の方法。

[本発明1017]

前記抗体が、SEQ ID NO:1によって同定される配列を有する重鎖を含む、本発明1016の方法。

[本発明1018]

前記抗体が、SEQ ID NO:2によって同定される配列を有する軽鎖を含む、本発明1016の方法。

[本発明1019]

スフィンゴシンキナーゼアンタゴニスト、S1Pアンタゴニスト、S1P受容体アゴニスト、S1P受容体アンタゴニスト、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体における抗侵害受容性耐性を治療する方法。

[本発明1020]

前記抗侵害受容性耐性がオピエート誘発性である、本発明1019の方法。

[本発明1021]

前記抗侵害受容性耐性がモルヒネによって誘発される、本発明1020の方法。

[本発明1022]

前記S1P受容体アゴニストがS1P1のアゴニストである、本発明1019の方法。

[本発明1023]

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ACT-128800、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、W146、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、本発明1019の方法。

[本発明1024]

前記S1Pアンタゴニストが抗S1P抗体である、本発明1019の方法。

[本発明1025]

前記抗体が、SEQ ID NO:1によって同定される配列を有する重鎖を含む、本発明1024の方法。

[本発明1026]

前記抗体が、SEQ ID NO:2によって同定される配列を有する軽鎖を含む、本発明1024の方法。

[本発明1027]

スフィンゴシンキナーゼアンタゴニスト、S1Pアンタゴニスト、S1P受容体アゴニスト、S1P受容体アンタゴニスト、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される薬物の有効量を個体に投与する段階を含む、個体における炎症性疼痛を治療する方法。

[本発明1028]

前記個体が炎症性疾患に罹患している、本発明1027の方法。

[本発明1029]

前記炎症性疾患が関節リウマチである、本発明1028の方法。

[本発明1030]

前記S1PアゴニストがS1P1のアゴニストである、本発明1027の方法。

[本発明1031]

前記S1P受容体アゴニストが、フィンゴリモド、BAF312、ボネシモド、ONO-4641、CS-0777、KRP-203、PF-991、W146、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される、本発明1027の方法。

[本発明1032]

前記S1Pアンタゴニストが抗S1P抗体である、本発明1027の方法。

[本発明1033]

前記抗体が、SEQ ID NO:1によって同定される配列を有する重鎖を含む、本発明1032の方法。

[本発明1034]

前記抗体が、SEQ ID NO:2によって同定される配列を有する軽鎖を含む、本発明1032の方法。